

2016年1月27日

富士フイルムホールディングス株式会社

2015年度 第3四半期決算説明会

主な質疑応答

Q1: イメージングソリューションの営業利益率が上がっているが、牽引役と思われるチェキの売上状況は？

A1: チェキは依然好調。販売台数は3Q累計で前期の290万台から今期は371万台(+28%)まで増加。年間販売目標台数500万台の達成に向けて、順調な進捗。地域別には、比較的早期に伸長した中国や韓国においては伸び率が鈍化し、横ばいとなったが、欧米では3Qで前年比2倍となり、全体では3割増を実現した。来年度も本年度と同等の伸び率を実現したい。

Q2: フラットパネルディスプレイ材料事業が減益の中で、インフォメーションソリューション全体での収益改善をもたらした事業とは？

A2: ヘルスケアの中でも特にメディカルシステムが好調で、内視鏡、超音波及び医療ITが大きく伸長した。また、産業機械のエクスクリアや太陽電池用バックシートも売上を伸ばした他、電子材料も堅実に売上・シェアが伸びており、牽引役となった。

Q3: ドキュメントソリューションは特に為替のマイナス影響が大きいようだが、今後の対策は？

A3: 3Qまでの為替影響は、特に事業拡大が進んでいる豪州ドルに対する円高進行によるところが大きい。為替影響を除いたオペレーションベースでは増益となっており、市場シェアも国内、中国含むアジア各国でも軒並みNo.1となっている。今後一層の海外拡大を進めていく中で、ハード売りからサービス化に伴い、モノの動きにかかる為替インパクトは受けにくくなる。コストダウンや経費削減を一層推進する他、国内生産品や付加価値の高い製品を拡販していく。

以上